

【ばれいしょの動向】

1 生産

(1) 平成25年産の全国の作付面積は7万9千700haで、その66%を北海道が占めている。また、全国の収穫量は240万8千tである。なお、ばれいしょの作付面積及び収穫量は、市場価格の低迷を受けて、生産割合の高い北海道において収益性の高い他作物等へ転換していること等により、減少傾向にある。

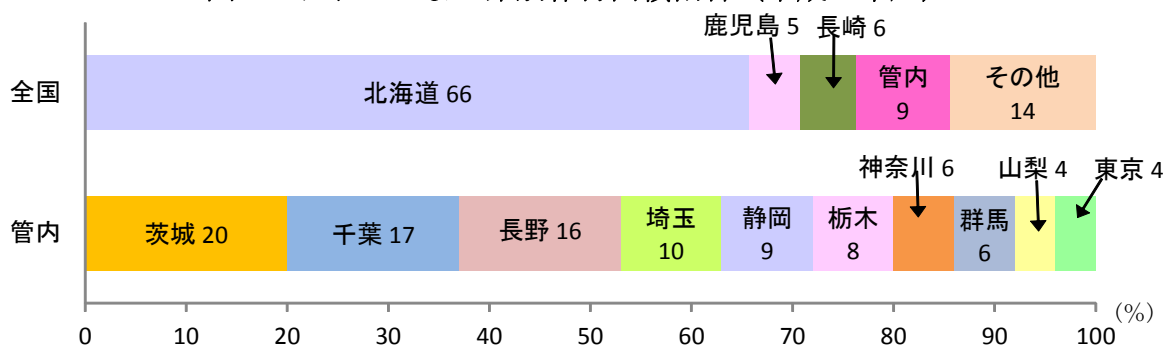
管内の作付面積は7,408ha（全国の9.3%）となっており、農業者の高齢化等により減少傾向にある。また、管内の収穫量は15万8,400t（全国の6.6%）で、作柄による増減はあるものの、ほぼ横ばいとなっている。なお、管内の主産県は茨城県、千葉県及び長野県である。

表1 作付面積及び収穫量(平成25年産)

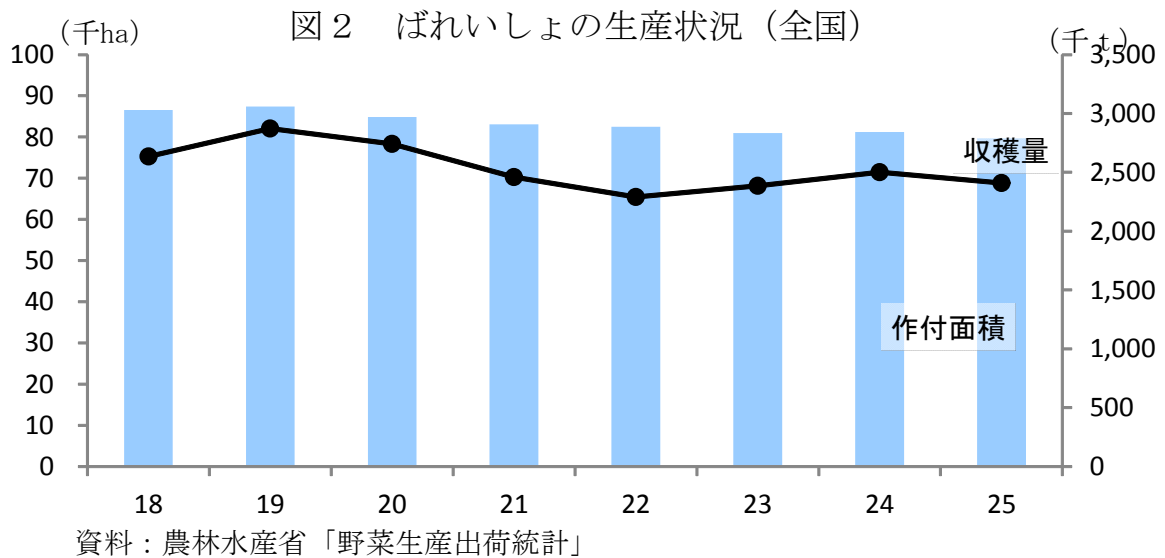
	作付面積(ha)	収穫量(t)
茨城県	1,470	41,800
栃木県	590	10,600
群馬県	408	7,930
埼玉県	773	13,400
千葉県	1,280	29,100
東京都	284	5,270
神奈川県	470	9,340
山梨県	318	3,080
長野県	1,150	23,100
静岡県	652	14,800
管内	7,400	158,400
全国シェア(%)	9.3	6.6
全国	79,700	2,408,000

資料：農林水産省「作物統計」

図1 ばれいしょの県別作付面積割合(平成25年産)



資料：農林水産省「作物統計」

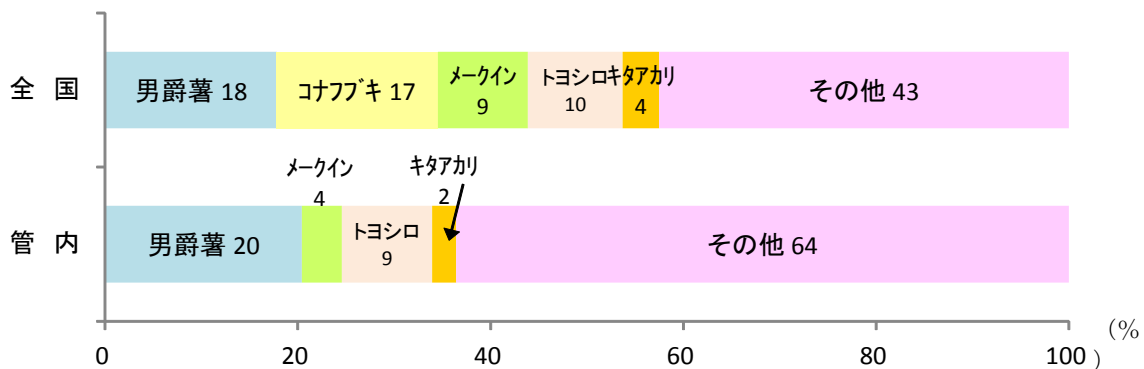


(2) 平成24年の全国のばれいしょの農業粗生産額は999億円で、主産県別にみると、北海道561億円、茨城県22億円、長崎県94億円、鹿児島県100億円等となっている。

(3) 平成24年産の全国の品種別作付面積割合をみると、生食用品種では「男爵薯」18%、「メイクイン」9%、でん粉用品種では「コナフブキ」17%、加工用品種（チップ用）では「トヨシロ」10%等となっている。

また、管内をみると、生食用品種では「男爵薯」20%、「メイクイン」4%、「キタアカリ」2%、加工用品種では「トヨシロ」9%等となっている。

図3 ばれいしょの品種別作付面積割合（平成24年産）



資料：農林水産省地域作物課調べ

(4) 優良品種の育成

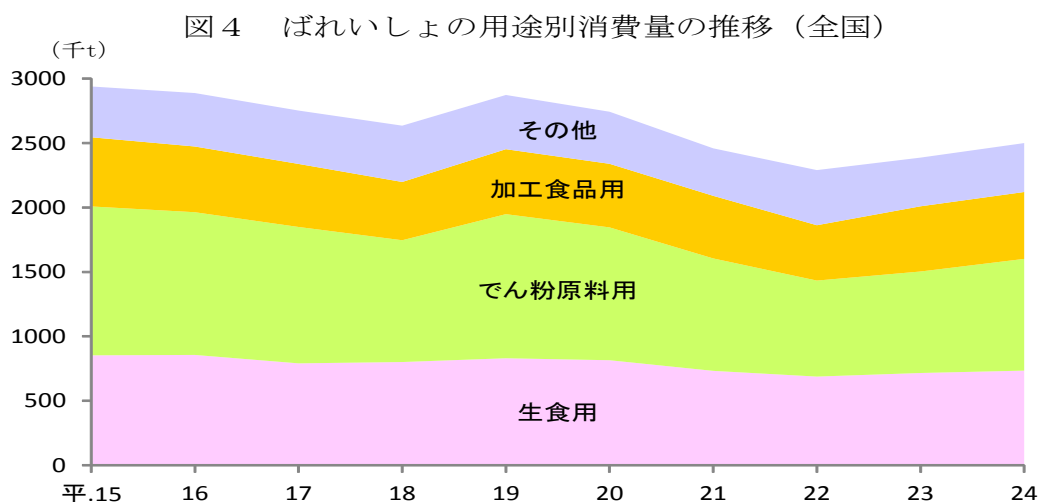
ア 青果用では、芽が浅く調理しやすく食味も良い「スタールビー」、「スノーマーチ」、「ゆきつぶら」等

イ 加工食品用では、フライ加工に適している「こがね丸」、食味が優れ、コロ
 ッケに適している「さやあかね」、「はるか」等。
 ウ でん粉原料用では、でん粉品質に優れる「ナツフブキ」等を育成。

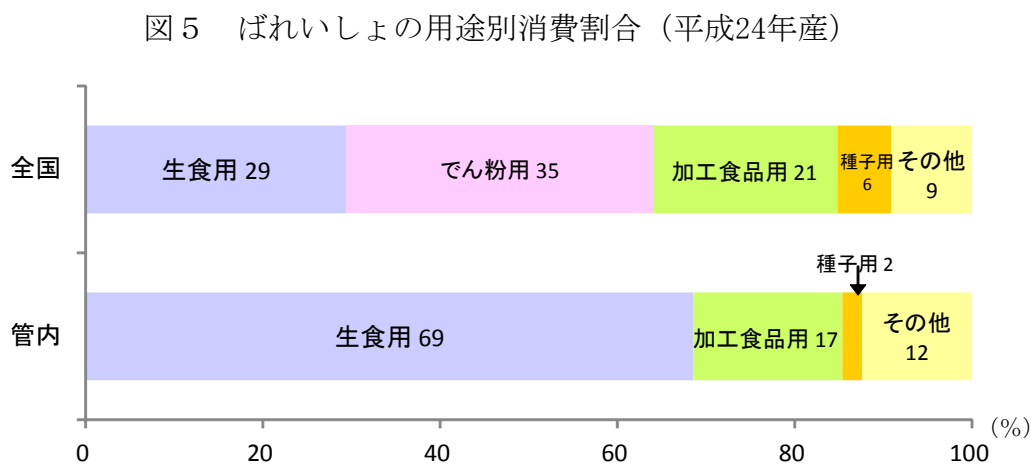
2 需給

平成24年産の全国のばれいしょの生産数量は250万tとなっている。

これを用途別消費量でみると、でん粉原料用が87万t（35%）、生食用が73万t（29%）、加工食品用が52万t（21%）等となっている。また、管内の用途別消費量の割合をみると、生食用が69%、加工食品用が17%等となっている。



資料：農林水産省地域作物課調べ



資料：県報告による農林水産省地域作物課調べ